

二松學舎大学資料展示室 企画展

金田一 耕助の 足跡

そのルーツから
最期まで

9月26日(水)～10月26日(金)

二松學舎大学資料展示室(九段キャンパス2号館1階)

月曜～土曜 10時～16時

日曜休館

入場無料

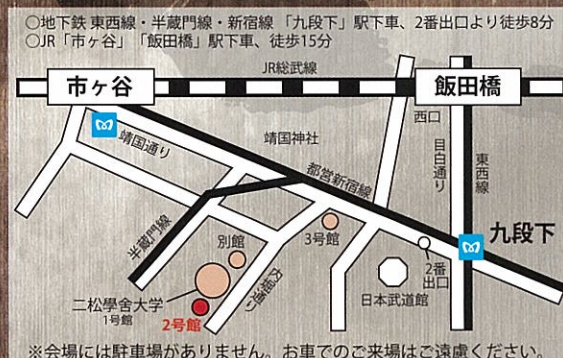
問い合わせ先

135
Anniversary

二松學舎大学附属図書館

〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

TEL:03-3263-6364 mail:c-lib1@nishogakusha-u.ac.jp



よれよれの着物にくたびれた帽子をかぶり、興奮すると言葉につまって頭をやたらとかきまわす。外見はおよそさえないにもかかわらず、人の気持ちをなごませる奇妙な魅力があり、すぐれた推理力で難事件を解決する——。みなさんもおなじみの金田一耕助は、日本で最も名の知られた名探偵と言えるでしょう。1946(昭和21)年、岡山に疎開していた横溝正史によって生み出されて以来、金田一耕助は、長きにわたって活躍を続け、登場作品は全部で77作を数えます。

二松學舎大学では創立135周年を記念し、企画展示「金田一耕助の足跡—そのルーツから最期まで—」を行います。

本学所蔵の横溝正史旧蔵資料の中から、金田一耕助に関わるものを厳選し、名作誕生の現場に迫ります。デビュー作『本陣殺人事件』の草稿、代表作『獄門島』・『八つ墓村』・『犬神家の一族』のメモ・草稿・原稿、トリッキーな短編『首』・『香水心中』の改稿版、最後の登場作『悪霊島』の創作ノート・原稿などの貴重な自筆資料を始めとして、少年時代から作者が愛読し、創作のヒントとした洋雑誌やポスター・スチール写真・シナリオなど珍しい映画関連資料も展示します。初公開の資料も多く、金田一耕助、そして横溝正史の歩みを知る絶好の機会です。多数のご来場をお待ちしています。

金田一耕助の略年譜

- 1913(大正 2)年 東北地方に生まれる
- 1931(昭和 6)年 地元の中学を卒業後、私立大学入学のため上京
- 1932(昭和 7)年 大学を退学し、渡米(サンフランシスコ)
- 1937(昭和12)年 「本陣殺人事件」(於:岡山)
- 1940(昭和15)年 従軍して中国大陸へ(終戦をニューギニアで迎える)
- 1946(昭和21)年 「獄門島」(於:瀬戸内海)
- 1948(昭和23)年 「八つ墓村」(於:岡山)
- 1949(昭和24)年 「犬神家の一族」(於:長野)
- 1955(昭和30)年 「悪魔の手毬唄」(於:岡山)
- 1967(昭和42)年 「悪霊島」(於:瀬戸内海)
- 1973(昭和48)年 「病院坂の首縊りの家」(於:東京)を解決
その後、渡米(ロサンゼルス)、消息不明となる



愛読した洋雑誌

『犬神家の一族』シナリオ



『八つ墓村』原稿

横溝正史

1902(明治35)年～1981(昭和56)年。神戸市に生まれる。神戸二中を卒業し、第一銀行に勤務。在学中より、外国の探偵小説を読み漁る。1921年大阪薬学専門学校に入学。同年雑誌「新青年」に最初の作品「恐ろしき四月馬鹿」を発表。1924年大阪薬学専門学校を卒業し家業の薬種業を継ぐ。1926年に最初の短編集『広告人形』を刊行、同年に江戸川乱歩の招きで上京し博文館に入社。雑誌「新青年」等の編集を担当する。1932年博文館を退社し文筆専業へ。信州での闘病生活を経て、妖艶耽美的探偵小説を次々に発表。

1946年『本陣殺人事件』に金田一耕助が初登場。1948年同作品で「第1回探偵作家クラブ賞長篇賞」を受賞。以後、金田一耕助は、江戸川乱歩の明智小五郎と並び、日本の探偵小説の著名な探偵となった。

探偵作家クラブ賞
賞状
當りつ會員の總意より、貴君の本陣殺人事件
を一九四七年度長篇探偵小説の最優秀の作と
して推薦し記念品を贈呈す
記念品 銀製洋皿一組
副賞 金賞賞状
昭和二十三年二月二十八日
探偵作家クラブ会長 江戸川乱歩
横溝正史 殿

第一回探偵作家クラブ賞 賞状